

管内金融経済概況

(概 況)

管内の景気は、持ち直している。

個人消費は、回復に向けた動きが広がっている。設備投資は、増加している。住宅投資は、持ち直している。公共投資は、弱めの動きとなっている。輸出は、増勢が鈍化している。

こうした中、生産は、横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得環境は、全体として緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回って推移している。

1. 最終需要の動向

個人消費は、回復に向けた動きが広がっている。

百貨店販売額は、回復している。スーパー販売額、家電販売額は、堅調に推移している。乗用車新車登録台数は、一段と持ち直している。

県内観光地入込客数は、回復している。神戸市内主要ホテルの客室稼働率は、持ち直している。

設備投資は、増加している。

6月短観における管内企業の設備投資計画をみると、需要好調な分野での能力増強投資や、中長期的な成長に向けた研究開発・ソフトウェア投資を背景に、増加している。

住宅投資は、持ち直している。

公共投資は、弱めの動きとなっている。

輸出は、増勢が鈍化している。

2. 生産の動向

生産は、横ばい圏内の動きとなっている。

主要業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械は、増加している。化学は、高水準で推移している。電気機械は、持ち直しの動きが一服している。食料品は、持ち直しの動きが続いている。輸送機械は、持ち直している。鉄鋼は、弱めの動きが続いている。金属製品は、横ばい圏内の動きとなっている。

3. 雇用・所得の動向

雇用・所得環境は、全体として緩やかに改善している。

4. 物価の動向

消費者物価（神戸市、除く生鮮食品）は、前年を上回って推移している。

5. 倒産の動向

企業倒産は、件数、負債総額ともに前年を上回った。

6. 金融面の動向

貸出金（末残）は、前年を上回っている。この間、貸出約定平均金利（ストック・総合）は、前月比低下した。

預金（末残）は、前年を上回っている。

以 上

本資料は、日本銀行神戸支店のホームページにも掲載しています
(<https://www3.boj.or.jp/kobe/>)。